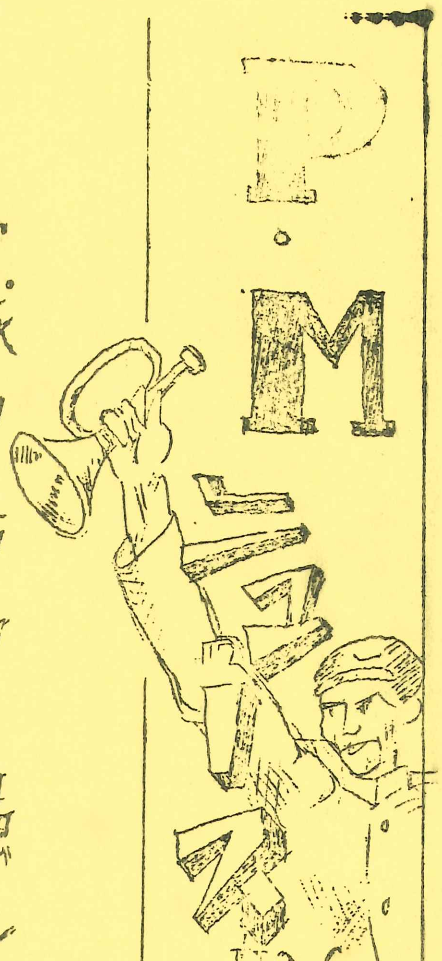
P.M ニュース



No.6.

上落合460
日本プロレタ
リア音樂家
同盟発行

1930.11.19

組織的活動の強化へ！

綻を深刻化して行く世界経済恐慌の渦の中に労農大衆は激しい斗争と共に日に日に革命化しつゝある。われわれもサヴェート革命記念のこの十一月まで約[illegible]年、絶えず同盟を守り組織の強化に、具体的活動に努力して来た。今われわれの上に課された役割は勿論この革命化しつゝある斗争の中から生れて来なければならない。題材のとられ方、うたはれ方も當然この中から生れねばならないのだ。全同盟員・研究生諸君！われわれ自身の役割に一層深き研究的態度をとれ・組織的活動の強化へ・

作曲活動を充實しろ！

事實上作曲者の少いためか すでに言はれて来た様に作曲活動が不振である。最近作品はほとんど獨唱用の、しかも高度のものゝ様に見える。現在ではさう言ったものよりも直ぐに労農大衆にうたひ得る斗争歌が必要だ。合唱隊でも新しい斗争歌を要求してゐるのに外国の曲へうたをつけて用ひる様な間に合せ的なやり方だ。どうしても日本の労働者の感情を盛った、日本の農民の感情から滲み出た作曲をしなくてはならない。それには作曲家自身がもっと根ぶかく労働者農民の中に入って行かなくてはならない、作曲同盟詩研究会との共同で今までの詩をうたへる詩に改作する方法もとられてゐる、合唱班にも作曲速成法として初歩的な作曲法を勉強してゐるま斗争歌が作られなくては合唱隊の活動として非常に不便だ、古いうたでは数の少いところへ何時迄つても増えない。では何らの活動の意義がなくなって来る。あらゆる場面へもちこまれるあらゆる種類の曲の生産が絶対に必要だ、作曲班の仕事の異った一場面としてプロキノ作品への伴奏選曲をした、すでに確定してゐるのです。「ニュース」、「こども」、「共同耕作」の三つとハーモニカによる伴奏効果をつけ加へた、公開と移動にフイルムについて活動を開始するぞ、

合唱班では

新たに入った研究生諸君のために特に斗争歌の練習時間を作ってどこででも直ぐうたへる様に熱心に練習をしてゐる。だが合唱班のものはもっと研究的であれ、うたのうたひ方、態度、再度批判されてゐるにも拘らず其の結果はどこへ行った時も同じ事を聞かされる。練習の時から厳格にやられなくてはならない、

ハーモニカ隊では

メムバーの熱心な練習で最近ではこの技術が目立って上ったやうだ、この最も現在の状勢に適應した武器を一層活用しろ、プロキノ公開にその具体的活動を開始する筈だ。器樂班でも[illegible]の練習をとり返して斗争歌の合奏をやってみる。

プロレタリア文芸講演会へ出動、

作家同盟主催のプロレタリア文芸講演会へ十一月九日出動した、コーラスに「憎しみのるつぼ」を新しい曲「屍をこえて」を、獨唱にはナップ十月号に載せた「里子にやられたおけい」を、左翼劇場の詩の朗讀にピアノとコーラスの伴奏を、演る筈だったが獨唱を少しやつただけで他は全然やれなかつたのは非常に残念である、

書記局より

★

合唱班確立で、

合唱班は今まで同盟全メムバーによって構成されてゐたが事実は合唱する者はその中の数名に決まった形になってゐるので班としてそのメムバーを一應決定した、（氏名は略す）自分の所ゾクの判きりしない者は申込め、

★

同盟費、研究費値上、

最近活動が多くなったので今までの三〇銭では油が切れさうになったので五〇銭に値上した、直ちに十一月分から徴収する、

★

図書部新設さ

相互研究のため持ちより図書部が出来た、目録を作るから貸してくれる者は責任者まで申し出て呉れ、

★

除籍、

種々の事情で左の者は除籍した、

林（甚）、[illegible]、篠原、
沖田、[illegible]、[illegible]、
安部、[illegible]、近藤、

関東支局主催
プロレタリア文芸大会へ助演、

十月二十四日、研究生全員出動の予定だったところメムバーを最少限にギセイにされたので同じ様な効果を挙げられなかった、二日目には曲目までもセイゲンされて[illegible]ニルのうたとメーデー歌しか許されなかった、